

平成28年度高松市男女共同参画センター市民企画講座
大人には見えにくいLGBTの子どもたち
多様な性の在り方に気づきサポートできる社会へのステップ

日時：平成28年8月21日（日）13：30～16：00

場所：男女共同参画センター 5階 第8会議室

企画：PROUD（プライド）

後援：高松市男女共同参画センター、MPO法人たかまつ男女共同参画ネット

内容：

- ・ホームページに顔が出てはいけない人はオレンジのテープを表示して。

○講師：遠藤まめた

○自己紹介

- ・1987年生まれ、横浜育ち。トランスジェンダー当事者としての自らの体験をきっかけに、10代後半よりLGBT（セクシュアル・マイノリティ）の子ども・若者支援に関わる。
- ・著書に「先生と親のためのLGBTガイド もしあなたがカミングアウトされたなら」（合同出版）ほか。
- ・本名が「遠藤」で、小さい頃のあだ名が「えんどうまめ」。戸籍上の性別は女性なので、女の名前が付けられているが、「えんどうまめ」が格好いいと思っていたので「遠藤まめた」に。
- ・朝日新聞の「人」に2年ほど前に掲載。
- ・18歳の頃から、「このままではダメだ」と活動を開始。

○今日の流れ

- ①多様な性の基礎知識
- ②子どもたちの状況
- ③大人にできること 学校で出来ること、親御さんが出来ることなど

○イメージは？

- ・学校や職場に行っても「うちにはいません」「いやいやいや・・・」
- ・オネエは笑ってもいいのか？ おもしろければ笑ってもいいのでは
新宿2丁目でポケモンGOをしていると、オカマに襲われる！？ そんな笑い話のようなTV放送が・・・

○海外では

- ・レディガガ バイセクシャル
- ・ムーミンの作者の彼女は 生涯を共にした人は女性 バイセクシャル
- ・水泳のイヤン・ソープ ゲイ
- ・ジョディー・フォスター 女性が好き レズビアン
- ・ハリリーポッターのダンブルドア校長はゲイとの設定

- ・日本では、みんなが思いつく人でカミングアウトしている人はいない。 → マツコ・デラックスか、あとは深刻な人との認識
- ・言しやすい社会と、言えない社会がある。

○多様な性

①**生物学的な性「からだの性」** 検査すれば性器の形などで識別される
成分化疾患（2000人に一人） 性染色体の異常、2次成長がないとか

②**性的指向「だれが好きか」**

「嗜好」ではなく「指向」で表現する。

・同姓が好き：ゲイ、レズビアン

・どっちも好き：バイセクシュアル

（人口の約3～5%） ← 左利きの人と同じほどの割合

いずれの性が好きかは、自分の意思で変えられるものではない。

※異性が好き：ヘテロセクシュアル

恋愛に興味なし：Aセクシュアル

・なぜなるのかはまだ不明

「育て方」や「片親」が関係しないことは確認されている。

③**性自認「こころの性」** 自分が自分をどう認識しているか 外からは見えない

・男として生まれたが女として生きたい

・女として生まれたが自分を女と思えない

・自分の乳房や性器、髭がはえていることが嫌い

トランスジェンダー

性同一性傷害（数百人～数千人に1人） ← 学校に一人いるぐらい

・日本では性転換手術を受けるには精神診断で「性同一性傷害」の診断が要る

○「性的指向」と「性自認」は別物

・性自認が男でも、性的指向が女でなく男のことはある。

・日本では、「性同一性傷害」の情報ばかりで、「同性愛」の情報が少ない。 → 割合の多い「同性愛」の情報が不足している

○LGBT

L：レズビアン

G：ゲイ

B：バイセクシュアル

T：トランスジェンダー

・分類よりも、性はそれぞれ違うもの、その人の話はその人の真実

・ゲイ、レズ、オカマ ← まわりの人が言うのは避けるべき言葉、陥れるような、見下すニュアンスがある

<子どもたちの状況>

・ハリーポッター

・レディーガガ バイセクシュアル 子どもたちへの応援の曲

・オバマ 子どもたちへの応援のメッセージがいっぱい

↑

・アメリカでは自殺する3人に一人がLGBT 自殺しないように！！

○子どもたちの自殺への思い

- ・ゲイ・バイセクシャルの男性
 - 65%：自殺を考えた 14%：自殺未遂
 - 50%：「ホモ」「おかま」といじめの被害を受けた
- ・性同一性傷害
 - 4人に一人が不登校
- ・学校で「多様な性」は習わない！
- ・LDBTへの無理解、ネガティブイメージは、すべての子どもに影響する。 → こんな状況で、自分がLGBTだということを受け入れられない、打ち明けられない

○同性が好きかも

- ・自己受容の問題：フツーになりたい
- ・情報不足：性同一性傷害？ 異性とつきあえば治る？
- ・周囲の環境：まわりの異性についての話に合わせるのもいや。本当の自分がばれたら、家や学校にいられない。

○教科書には

- ・学習指導要領には「思春期になると、遅かれ早かれ、誰でも異性にひかれる」と書かれている。これが「自然だ」と書かれている。
- ・このような記載を見たLGBTはショックを受ける。

○自分、男（女）じゃないかも

- ・身体のこと：自分の身体がキモい、トイレで分けられるのがつらい、劣等感だらけ
- ・周囲、・制度のこと：いじめ、トイレ、更衣室、プールの授業、修学旅行での男女分け

○LGBTをネタとした差別・からかい

- ・見聞きしたことがある：83%
- ・何もしなかった：60%
- ・自分がいじめられないよう一緒に笑った：23%
- ・やめてほしいと言った：11%

○誰かに打ち明けられたか

- ・18歳になるまでに「誰にも言えなかった」女子31%、男子53%
- ・打ち明ける相手は親しい同級生

<大人に出来ること>

○対応には2種類ある

- ・相談前対応：言っても言わなくても、LGBTでも困らない環境、いざとなったら言える環境を作る
- ・相談後対応：話してくれた子どもにどう接するのか

○相談前対応

- ・LGBTに関する本やチラシ、ポスターを身の回りに。

- ・ 普通の会話の中で肯定的な情報を伝える：いろいろな人がいることを前提に話をする。
- ・ 差別的なジョークは放置しない：手短に「それ、どういう意味？」が有効

- ・ ポスターが張ってあることで、会話することが出来る。ポスターを貼ってくれる先生が居ることを知っただけでうれしい。
- ・ 当事者のメッセージを下駄箱のところに張り、話題に出来る環境づくり。
- ・ 会話に挟む：オリンピックで選手がゲイ同士でプロポーズ。

○相談後対応

- ・ 「話してくれて、どうもありがとう」
- ・ あとは、対応は一人ひとり異なる
「それってどんな気持ち？」「困っていることがあるの？」と本人に聞く
- ・ 聞いたことを言いふらしたり、本人の了解のないまま親に言ったりするのはだめ。

○人間関係編

- ・ LGBTに理解のない家族では、家にいることが安全だと思えない。
- ・ まずは数人でも味方になってくれる人が見つかりそうか、一緒に考えてみる。
- ・ 当事者グループや信頼できそうな相談機関を自分で調べられそうか訊く。
- ・ 本人の許可なく家族には絶対に伝えない。

○性別問題編

- ・ 制服やトイレ等の男女区別に違和感がある
- ・ 自分の身体を他人に見られたくない
- ・ みんなにカミングアウトしなきゃだめ？
↓
- ・ どんな場面で困り、どうしたいかを本人から事前に訊く。
教師用の部屋やトイレを使うとか、工夫はある。
- ・ 誠意を込めて会話をするプロセスが重要。
- ・ 必ずしも周囲へのカミングアウトを必要としないこともある。

○LGBTにとっての家族

- ・ **もっとも知られたい相手は「家族」であることも多い。**
- ・ 家族は、本人以上に孤立することがある。
 - ①あなたは一人じゃありません
 - ②あなたのせいじゃありません
 - ③あなたは大切な人です

○信頼できる大人とは

- ①決めつけない「大人」
- ②孤立していない「大人」
- ③援助を求めることが出来る「大人」

○ムーミンには性別不詳のキャラクターがある

- ・性別を問い合わせる手紙がたくさん会社に来る
- ・会社では、「性別や型にはめられた物事よりも、ひとりぼっちの小さな生き物がいないかどうか
ってことの方が大切なんだよ」と答える。

14:53~15:02 質疑

Q：私も、当事者として人前で話をすることがある。返答に困る質問がある。遠藤さんが困った質問はありますか。

A：「言われて嫌なことはなんですか？」「答えたくない」でもいい。

Q：LGBTの見分け方は

A：LGBTを見分ける必要はない。その人がしたいように、自由に遊べる環境を作る。女の子が男勝りに遊んでいると、将来はナデシコじゃパンやな。しかし、男の子がスカートが好きだというと、家の中で工夫するとか。12歳を越えると性が固定する。小さいうちは様子を見ておくことも。

Q：LGBT 小学校、中学校、高校でのおすすめの本は

A：

- ・小学生：ポプラ社「いろいろな性別 いろいろな生き方」 写真がふんだんの本
- ・中高生：「中高生が知りたいLGBT本当のところ」 Q&A形式で
「思春期サバイバル」
- ・医療現場：医療福祉の冊子 「教師と医療関係者が知っておきたいLGBTサポートブック」
- ・ 発達過程ごとに、何をどのように教えたらいいか
母親のメッセージもある

15:02~15:15 休憩

15:15~16:05 グループワーク

—以上—